

(参考) 先人リスト ※市町村照会済

No.	先人氏名	分野	振興局	市町村	先人		
					功績概要	施設名	開館時期
1	坂 市太郎	産業	空知	夕張市	ライマンの門下生として資源調査（1873年～1875年）に参加し、その後、1888年に師の意志を継いで夕張炭田を発見した。坂らが発見した露頭の一部は、北海道指定天然記念物「夕張の石炭大露頭」として保存されている。	夕張市石炭博物館	未定～11/4（冬季休館）
2	ベンジャミン・スミス・ライマン	産業	空知	夕張市	明治初期に北海道において地質及び資源に関する調査を行った（1873年～1875年）。幌内、空知等の石炭層の分布を明らかにし、また夕張炭田発見への道筋を作った。	夕張市石炭博物館	未定～11/4（冬季休館）
重複	ベンジャミン・スミス・ライマン	産業	空知	三笠市	1872（明治5）年北海道開拓使の招待で来日し、三笠市の幌内地区の炭層をはじめ、「未開の蝦夷地」に眠る地下資源調査を行った。1876（明治9）年には「北海道地質総論」をまとめた。	三笠市役所 商工観光課 地域開発・ジオパーク推進係	4/1～3/31（通年）
3	村本 辰雄	自然	空知	三笠市	三笠市における化石収集の先駆者。松本達郎・九州大学名誉教授との化石の共同研究を進め、8種の新種アンモナイトを発表している。松本達郎が昭和天皇への「ご進講」の際に持参したアンモナイト化石の発見者でもある。	三笠市立博物館	4/1～3/31（通年）
4	ジョセフ・クロフォード	歴史	空知	三笠市	石炭を本州へ輸送するため、日本初の産業鉄道「幌内鉄道」の工事を指揮し、北海道の鉄道の発展に大きく貢献した。	三笠鉄道村	4/16～10/14（冬季休館）
5	岩橋 英遠	アート	空知	滝川市	岩橋英遠は屯田兵の二世として滝川村江部乙（現滝川市江部乙町）に生まれ、21歳のときに画家を志して上京。苦勞のすえ日本画家として大成し、文化勲章を受章した。	滝川市美術自然史館	3/1～11/30（冬季休館）
6	高畑 利宜	歴史	空知	滝川市	高畑利宜は明治3年に開拓史に奉職し、同5年に上川地方を踏査。明治19年には北海道庁長官・岩村通俊の命により上川仮道（今の国道12号）を建設した明治期における北海道開拓の功労者である。	滝川市郷土館	5～9月の土日祝
7	山谷 源次郎	その他	空知	砂川市	日本で2番目に孤児院を設立。公的支援を受けずに寄付金と入所者たちによる音楽演奏や活動写真の上映による売り上げを資金源とした。最盛期には砂川の他、東京、札幌、旭川などに支院を設け、孤児救済に私財を投じて尽力した。	砂川市公民館	4/1～3/31（通年）
8	石川 邦光	歴史	空知	南幌町	戊辰戦争の後、領地（現在の宮城県角田市）を失い困窮した家臣とともに開拓団として現在の南幌町に入植、その後の発展の礎を築いた人の一人。	南幌町生涯学習センター	4/1～3/31（通年）
9	月形 潔	歴史	空知	月形町	樺戸集治監の初代典獄であり、未踏の原野の開拓のほか、インフラ整備や商人の招致など町の発展の寄与した	樺戸博物館	4/1～11/30（冬季休館）
10	松浦 武四郎	歴史	石狩	札幌市	生涯にわたって全国を歩き続け、探検家、作家、知事学者、出版社、古物収集家などとして幅広い分野で活躍。全6回にわたり蝦夷地を調査し、「北加伊道」の名称を明治政府へ提案。調査の際には、アイヌの人たちに案内をお願いし、寝食を共にするなどアイヌの文化に深く触れるとともに、その生活や文化を紹介するため、多くの記録を残した。	北海道博物館	4/1～3/31（通年）
11	エドウィン・ダン	産業	石狩	札幌市	北海道開拓使に招かれたお雇い外国人のひとり。牛の飼育・搾乳技術、バター・チーズ・ソーセージなどの乳や肉の加工技術を指導したことから「北海道酪農の父」と呼ばれている。	エドウィン・ダン記念館	4/1～3/31（通年）
12	黒岩 清五郎	歴史	石狩	札幌市	開拓使簾舞通行屋守。簾舞地区の開祖。	札幌市有形文化財 旧黒岩家住宅 （旧簾舞通行屋）	4/1～3/31（通年）
13	佐藤 孝郷	歴史	石狩	札幌市	宮城県白石市から約600人の移住団を率いて入植し、白石開拓の基礎をつくったほか、白石小学校の前身である学問所を開き、「善俗堂」と名付けた。	白石郷土館	4/1～3/31（通年）
14	大野 精七	スポーツ	石狩	札幌市	1885年～1982年	札幌オリンピックミュージアム	4/1～3/31（通年）
15	大友 亀太郎	歴史	石狩	札幌市	慶応2年に幕府に石狩地方の開拓を命ぜられ、札幌市東区（旧・元村）を開墾し、札幌の街づくりの発端となった。飲料水、灌漑用水のために開削した「大友堀」は、後に運河となり人や物資を運んだ。「大友堀」は、現在の創成川の基となった。	札幌村郷土記念館	4/1～3/31（通年）

No.	先人氏名	分野	振興局	市町村	功績概要	施設名	開館時期
16	井上 清	観光	石狩	札幌市	手入れがされずに止まっていた時計台の時計を動かし、長年に渡り、重り巻上げ、機械の点検清掃、注油作業など、時計機械の保守を行った。 地震や凍結等で時計が止まることもあり、大きな地震があると夜中でも時計台に駆け付け点検を行った。 1933年（昭和8年）から親子2代に渡り80年間という長い年月の間、時計機械を守り続けた。	札幌市時計台	1/4～12/31
17	本郷 新	アート	石狩	札幌市	戦後の日本を代表する彫刻家	本郷新記念札幌彫刻美術館	4/1～3/31（通年）
18	永山 武四郎	歴史	石狩	札幌市	1872（明治5）年、開拓使に出任、1878（明治11）年に屯田事務局長となり、屯田兵設置に尽力する。1888（明治21）年には第2代北海道庁長官となり、北海道の開拓、産業の発展に努め、晩年は上川地方の開拓に力を注いだ。	札幌市旧永山武四郎邸及び札幌市旧三菱鉱業寮	
19	三岸 好太郎	アート	石狩	札幌市	札幌出身で大正末から昭和初期の中央画壇で活躍した天折の洋画家。西洋美術に反応して作風を変えながら、「蝶と貝」シリーズなどの優れた作品を描き、洋画史に輝かしい足跡を残した。	北海道立三岸好太郎美術館	4/1～3/31（通年）
20	村橋 久成	食	石狩	札幌市	開拓使札幌麦酒醸造所を創業	サッポロビール博物館	4/1～3/31（通年）
21	黒澤 西蔵	食	石狩	札幌市	雪印メグミルク創業者の1人	雪印メグミルク 酪農と乳の歴史館	4/1～3/31（通年）
22	おおば 比呂志	アート	石狩	札幌市	札幌市出身の漫画家・画家	おおば比呂司記念室	
23	安達 喜幸	アート	石狩	札幌市	開拓使を代表する建築技師。1827（文政10）年に江戸芝の天工棟梁の家に生まれ、44歳で官途に転じた。1871（明治4）年に工部省会計局宮繕方附属、続いて同年11月に開拓使御用係を拝命して札幌詰となり、開拓使札幌本庁竣工（明治6）にかかわった。1874（明治7）年に上席となつてからは、札幌農学校農園模範家畜房（明治10）、札幌農学校演武場（同11年）、豊平館（同14年）など、一連の洋風建築の設計建築を主導した。	札幌市豊平館	1/4～12/28
24	小森 忍	アート	石狩	江別市	大正から昭和前期にかけて東洋古陶磁の科学的解明と応用に努め、日本と北海道の陶芸の近現代化に大きく寄与した。	江別市セラミックアートセンター	4/1～3/31（通年）
25	中山 久蔵	食	石狩	北広島市	明治6年、道南より以北の寒地での米（赤毛）の栽培に成功し、北海道米の礎を築いた。また、明治17年、島松駅通所の4代目の取扱人となり尽力した。現在、国指定史跡旧島松駅通所。	北広島市エコミュージアムセンター	4/1～3/31（通年）
重複	中山 久蔵	食	石狩	北広島市	明治6年、道南より以北の寒地での米（赤毛）の栽培に成功し、北海道米の礎を築いた。また、明治17年、島松駅通所の4代目の取扱人となり尽力した。現在、国指定史跡旧島松駅通所。	史跡旧島松駅通所	4/28～11/3（冬季休館）
26	子母澤 寛	文学	石狩	石狩市	幕末維新を扱った時代小説のバイオニア。郷土を愛し生地である石狩市厚田を舞台にした「蝦夷物語」などの作品を残した。	道の駅石狩「あいろーど厚田」	4/1～3/31（通年）
27	伊達 邦直	歴史	石狩	当別町	当別町は明治4年4月に伊達邦直主従により開拓の跡が入れられた。昼なお暗い原始林を切り開き、水害や冷害など幾多の困難を不屈の精神と強い団結力によって克服し、今日の当別町を築きあげた。	当別伊達記念館・伊達邸別館	5/1～10/31
28	廣井 勇	産業	後志	小樽市	小樽港の築港 北防波堤の建設	おたるみなと資料館（北海道開発局小樽港湾事務所）	4/1～3/31（通年）
29	渋谷 吉尾	歴史	後志	黒松内町	生涯6,000足以上のかんじき「渋谷式かんじき」を作成し、山仕事や雪道の歩行などで苦労している人たちに無償提供した。	ブナセンター	4/1～3/31（通年）
30	新島 善直	自然	後志	黒松内町	黒松内町の市街地付近にある「歌オナナ林」の調査を行い、国の天然記念物指定へ尽力した。	ブナセンター	4/1～3/31（通年）
31	館脇 操	自然	後志	黒松内町	戦時中、ブナを戦闘機のプロペラの材料として伐採する計画がでるが、北限のブナ林の学術的価値を訴え、伐採の危機から救う。	ブナセンター	4/1～3/31（通年）
32	辻井 達一	自然	後志	黒松内町	黒松内低地帯の自然環境について国際的価値を早期から見出し、国内における先駆的な取組に尽力した。また、生物多様性の保全と活用による持続可能なまちづくり推進に多大な貢献をした。	ブナセンター	4/1～3/31（通年）
33	有島 武郎	文学	後志	二セコ町	有島家は同地に不在地主として農場を所有したほか、小説家・有島武郎は同地を舞台に代表作「カインの末裔」「生れ出づる悩み」を執筆。武郎は農場を「相互扶助」の精神で無償開放し、その思想は二セコ町のまちづくりの基本として今も受け継がれている。	有島記念館	4/1～3/31（通年）
34	小川原 脩	アート	後志	倶知安町	倶知安町に生まれ、戦後は一貫して郷里で創作を続けた現代美術のバイオニア。「個と群れ」をテーマに動物たちを描いたほか、晩年はアジアの風物を中心に独自の世界を展開した。	小川原脩記念美術館	4/1～3/31（通年）
35	テオドール・フォン・レルヒ	スポーツ	後志	倶知安町	日本ではじめて本格的なスキー技術の指導をした人物。旭川第7師団にスキー技術（一本杖式）の指導を行い、倶知安町ではスキーによる羊蹄山登山を敢行した。	倶知安風土館	4/1～3/31（通年）
36	西村 計雄	アート	後志	共和町	1971年 芸術文化勲章（フランス政府）、1975年 パリ・クリティック賞（パピム・ドール）、1978年 ユーマン・プログレ勲章（フランス政府）、1981年 紺綬褒章、1991年 共和町名誉町民、2007年 パリのアトリエ跡に記念プレート設置	西村計雄記念美術館	4/1～3/31（通年）
37	木田 金次郎	アート	後志	岩内町	有島武郎の小説「生れ出づる悩み」の主人公のモデルとなった画家。岩内町周辺の数多くの自然を描いた北海道を代表する画家。	木田金次郎美術館	4/1～3/31（通年）

No.	先人氏名	分野	振興局	市町村	功績概要	施設名	開館時期
38	竹鶴 政孝	食	後志	余市町	ニッカウヰスキーの創業者。「日本のウヰスキーの父」と呼ばれる。	ニッカウヰスキー余市蒸留所	4/1～3/31 (通年)
39	添田 龍吉	歴史	胆振	室蘭市	明治3年に当時の室蘭郡に仙台藩角田領から入植。開拓を主導し、艱難辛苦を経て室蘭地域発展の礎を築いた。	室蘭市民俗資料館	4/1～3/31 (通年)
40	小保方 卯市	その他	胆振	苫小牧市	明治時代より苫小牧において多くの事業をおこすとともに消防組頭として住民の安全に心を配った。また教育の重要性を認識し、苫小牧工業高校の設立に尽力した。昭和28(1953)年苫小牧初の名誉市民に叙された。	苫小牧市美術博物館	4/1～3/31 (通年)
41	宮武 藤之助	歴史	胆振	登別市	明治15年(1882)に香川県今津村(現丸亀市)より家族とともに登別市へ移住し、厳しい開拓生活を送り、その後、駅通や醸造業を手掛け、村議会議員などを歴任した。彼の回想録である『丈草記』には、開拓の様子が詳細に記され、血のにじむような努力と忍耐が必要だったことを今に伝える。	登別市郷土資料館	4/1～3/31 (通年)
42	知里 真志保	アイヌ	胆振	登別市	北海道大学などでアイヌ語を研究し、一般の人にもわかりやすいアイヌ語の本を出版したり、音声を記録するなど多くの成果を残した。	登別市郷土資料館	4/1～3/31 (通年)
43	日野 久橘	観光	胆振	登別市	明治32年(1899)に登別温泉の奥座敷ともいえるカルルス温泉を開場。道の開削など自ら行い、カルルス温泉の開発に尽力した。	登別市郷土資料館	4/1～3/31 (通年)
44	片倉 景光	歴史	胆振	登別市	仙台藩士片倉家の第13代当主。登別市へ移住した家臣とともに開拓に従事し、明治31年(1898)には旧家臣らの運動と開拓の功績が認められ男爵を授かる。	登別市郷土資料館	4/1～3/31 (通年)
45	金成 マツ	アイヌ	胆振	登別市	ユカラなどの言葉で語り継がれてきたアイヌの物語をローマ字で100冊ものノートに書き記し、伝承活動を行った。知里幸恵・真志保の叔母にあたる。	知里幸恵 銀のしずく記念館	3/1～12/19
46	知里 幸恵	アイヌ	胆振	登別市	アイヌ語を初めてローマ字で記録し、日本語訳も付した、アイヌユカラ(神様の物語)を収めた『アイヌ神謡集』を著し、アイヌの世界観を多くの人々に伝えた。	知里幸恵 銀のしずく記念館	3/1～12/19
47	萱野 茂	アイヌ	日高	平取町	子どもたちのアイヌ語教室を開き、伝統的な民具を集めて資料館を作るなど、生涯をかけてアイヌ民族文化の保存・伝承活動を続けた。1994年には参議院議員に当選。アイヌ民族で初めての国会議員となり、国会でアイヌ語を使って質問したほか、アイヌ文化振興法の成立に力を尽くした。	二風谷アイヌ文化博物館	1/16～12/15
重複	萱野 茂	アイヌ	日高	平取町	子どもたちのアイヌ語教室を開き、伝統的な民具を集めて資料館を作るなど、生涯をかけてアイヌ民族文化の保存・伝承活動を続けた。1994年には参議院議員に当選。アイヌ民族で初めての国会議員となり、国会でアイヌ語を使って質問したほか、アイヌ文化振興法の成立に力を尽くした。	萱野茂二風谷アイヌ資料館	4/1～3/31 (12～3月は要事前連絡)
48	西 忠義	産業	日高	浦河町	1901年浦河支庁長に着任。日高実業協会を創設し、国営種馬牧場の設置を上請し日高種馬牧場が設置された。加えて、産業振興及びインフラ整備を進めるとともに農林水産業の発展、教育の充実にも力を注がれ、日高民心の啓発につとめ、日高の物質的精神文化に貢献した。	浦河町立郷土博物館	4/1～3/31 (通年)
49	沢 茂吉	歴史	日高	浦河町	北海道開拓団の赤心社に入社、浦河郡に入植。明治16年副社長。牧畜やしょうゆ製造で経営の多角化をはかり、入植者子弟のための教会堂兼学校を開設した。	浦河町立郷土博物館	4/1～3/31 (通年)
50	宮部 金吾	自然	日高	様似町	1884年、アポイ岳の植物を最初に調査した。これをきっかけにアポイ岳固有の高山植物が発見され、国の特別天然記念物として指定された。	アポイ岳ジオパークビジターセンター	4/1～11/30 (冬季休館)
51	中村 小市郎	歴史	日高	様似町	江戸幕府が北方警備上重要視し開削した様似山道(国の史跡)の責任者として活躍。後に様似会所の詰合を務めるとともに、樺太島の調査にも派遣された。	様似郷土館	4/1～3/31 (通年)
52	シャクシャイン	アイヌ	日高	新ひだか町	アイヌ民族の蜂起のリーダー	新ひだか町博物館	4/1～3/31 (通年)
重複	シャクシャイン	アイヌ	日高	新ひだか町	アイヌ民族の蜂起のリーダー	アイヌ民族資料館	4/1～3/31 (通年)
53	金子 鷗亭	アート	渡島	函館市	現代書において、「近代詩文書」という新分野を切り開いた。	北海道立函館美術館	4/1～3/31 (通年)
54	蠣崎 波響	アート	渡島	函館市	松前藩の家老として藩の困難な時代に藩政を支えたと同時に画家・文人としても活躍。代表作は《夷酋列像》	北海道立函館美術館	4/1～3/31 (通年)
55	石川 啄木	文学	渡島	函館市	道内各地を流転した歌人	石川啄木函館記念館	4/1～3/31 (通年)
56	土方 歳三	歴史	渡島	函館市	戊辰戦争で旧幕府軍指揮官のひとり。箱館戦争で死亡。元新選組副長。	土方歳三函館記念館	4/1～3/31 (通年)
57	高田屋 嘉兵衛	産業	渡島	函館市	日本とロシアの間に立ちゴローニン事件を解決。	箱館高田屋嘉兵衛資料館	4/1～12/28 (冬季休館)

No.	先人氏名	分野	振興局	市町村	功績概要	施設名	開館時期
58	カール・レイモン	食	渡島	函館市	函館でドイツ式ハム・ソーセージを作り続けた。	カールレイモン・歴史展示館	4/1～3/31 (通年)
59	トーマス・ブラキストン	科学	渡島	函館市	貿易商、探検家。函館で貿易商を営み、20年以上生活。津軽海峡における動物学的分布境界線存在を発見。	函館山ロープウェイ山頂駅	4/1～3/31 (通年)
60	三橋 美智也	音楽	渡島	北斗市	生涯で1億枚以上のレコードを売り上げ、日本歌謡界に多大な功績を残した。 新函館北斗駅西側公園には記念碑が建立、観光交流センター内市民交流スペースに大型パネルを掲示。	北斗市観光案内所 (北斗市観光交流センター内)	4/1～3/31 (通年)
重複	蠣崎 波響	歴史	渡島	松前町	松前藩家老であり、絵師でもあった人物で、アイヌ民族の有力者を描いた『夷酋列像(いしゅうれつぞう)』が代表作として知られる。	松前城資料館	4/10～12/10
重複	蠣崎 波響	歴史	渡島	松前町	松前藩家老であり、絵師でもあった人物で、アイヌ民族の有力者を描いた『夷酋列像(いしゅうれつぞう)』が代表作として知られる。	松前町民総合センター	12/11～2月
61	伊能 忠敬	歴史	渡島	福島町	1800年～1817年にかけて、日本全国を測量して「大日本沿海輿地全図」を完成させ、国土の正確な姿を明らかにした。	福島町役場	4/1～3/31 (通年)
62	千代の山 雅信	スポーツ	渡島	福島町	大相撲第41代横綱。北海道出身としては初。6度の優勝を果たした。	横綱千代の山・千代の富士記念館	3月17日～11月30日
63	千代の富士 貢	スポーツ	渡島	福島町	大相撲第58代横綱。31度の優勝を誇り、史上初の1000勝を達成(通算1045勝)。ウルフの愛称で親しまれた「昭和の大横綱」。	横綱千代の山・千代の富士記念館	3月17日～11月30日
64	中島 正一	スポーツ	渡島	福島町	日本人で初めて、津軽海峡を単独遠泳による横断に成功した。	福島町役場	4/1～3/31 (通年)
65	榎本 武揚	歴史	渡島	森町	箱館戦争に向け、鷲ノ木の地に旧幕府軍を率いて開陽丸等の軍艦で上陸した。終戦後に北海道開拓使として再度訪れた際、森棧橋(札幌本道)の杭に防腐のため石油を塗るよう助言をした。	道の駅「YOU・遊・もり」	4/1～3/31 (通年)
重複	榎本 武揚	歴史	渡島	森町	箱館戦争に向け、鷲ノ木の地に旧幕府軍を率いて開陽丸等の軍艦で上陸した。終戦後に北海道開拓使として再度訪れた際、森棧橋(札幌本道)の杭に防腐のため石油を塗るよう助言をした。	道の駅「つど～る・プラザ・さわら」	4/1～3/31 (通年)
66	柴崎 重行	アート	渡島	八雲町	八雲が発祥となる北海道の木彫り熊を、開始期のごころから作り始め、手斧で割った面を主として作られた柴崎彫り(ハツリ彫り)の木彫り熊を生み出した。木彫り熊を土産品でなく芸術として制作した。	八雲町木彫り熊資料館	4/1～3/31 (通年)
67	和田 芳恵	文学	渡島	長万部町	長万部町出身の直木賞作家 1963年「塵の中」で受賞 樋口一葉研究の第一人者とも呼ばれる。 1977年「暗い流れ」で日本文学大賞受賞 1978年「雪女」で川端康成賞受賞 など	長万部町民センター	4/1～3/31 (通年)
68	荻野 吟子	その他	檜山	せたな町	明治18年(1885) 医術開業試験に合格し、近代日本の最初の女性医師となったほか、日本キリスト教婦人矯風(きょうふう)会風俗部長、大日本婦人衛生会幹事など社会運動にも従事した。	生涯学習センター	4/1～3/31 (通年)
69	沢口 富士吉	その他	檜山	奥尻町	鍊の凶漁により、飲酒に耽る惰性が漁民の生活を改めるため、禁酒運動を發起。運動は功を奏し、1885年から約5年間に渡り、奥尻島では禁酒令が敷かれた。	稲穂ふれあい研修センター	5/2～10/31の木・土
70	中原 悌二郎	アート	上川	旭川市	日本の近代彫刻の扉をひらき、その道を開拓した彫刻家の一人として日本彫刻史に偉大な功績を残した。	中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館	4/1～3/31 (通年)
71	井上 靖	文学	上川	旭川市	旭川の師団官舎で生まれる。日本を代表する小説家。1936年『流転』により千葉龍雄賞を受賞。毎日新聞記者を経て、1950年『闘牛』により芥川賞を受賞。その後も『天平の甕』、『氷壁』、『敦煌』、『孔子』等多数の作品を残し、数々の賞を受賞。1976年 文化勲章を受章。	井上靖記念館	4/1～3/31 (通年)
72	板東 三百	文学	上川	旭川市	屯田二世として、旭川に入植した屯田兵の苦労と、時代に翻弄され、没落してゆく姿をリアリズムの視点で描き出した。	旭川文学資料館	4/1～3/31 (通年)
73	三浦 綾子	文学	上川	旭川市	「氷点」「塩狩峠」「銃口」などの小説作品を世に送り出した。	三浦綾子記念文学館	4/1～3/31 (通年)
74	川村 カ子ト	アイヌ	上川	旭川市	上川地方アイヌを代表する旧家・川村家の第8代目。アイヌ文化を正しく伝承するため、1916年に私費を投じて北海道最古のアイヌ資料館(現・川村カ子トアイヌ記念館)を開設した。また、鉄道の測量技師として多くの鉄道建設に業績を残した。	川村カ子トアイヌ記念館	4/1～3/31 (通年)
75	名越 源五郎	歴史	上川	士別市	屯田兵歩兵第3大隊第5中隊の中隊長として、最北で最後の屯田兵による土別の開拓の一役を担った。	士別市立博物館	4/1～3/31 (通年)

No.	先人氏名	分野	振興局	市町村	功績概要	施設名	開館時期
76	木原 秀雄	科学	上川	名寄市	高校教師の傍ら、名寄市において戦前から日食観測等、天文観測活動を行い、退職時に私設の「木原天文台」を建設、広く市民に開放した。	なよろ市立天文台	4/1～3/31（通年）
77	兜谷 徳平	歴史	上川	富良野市	下富良野官設駅通の開設。富良野原野の開発（排水路・用水路を設置）	富良野市博物館	4/1～3/31（通年）
78	太田 龍太郎	その他	上川	愛別町	明治43年に愛別村長に就任。愛別村の発展は鉄道の敷設に有りとし、石狩川上流の探検に自ら従事。石北線の建設に大きな影響を与えた。また、その探検の際に現在の層雲峡の景観に感銘を受けたことから国による保護を大きく掲げ、大雪山国立公園の生みの親とも呼ばれている。	愛別町公民館図書室	4/1～3/31（通年）
79	吉田 貞次郎	その他	上川	上富良野町	十勝岳噴火災害からの復興に尽力した。	上富良野町開拓記念館	5～10月（冬季休業）
80	田中 常次郎	歴史	上川	上富良野町	上富良野町の開拓に貢献した。	上富良野町開拓記念館	5～10月（冬季休業）
重複	三浦 綾子	文学	上川	和寒町	北海道旭川市出身の作家で小説「塩狩峠」「氷点」などのベストセラーがある。	塩狩峠記念館	4/1～11/30（冬季休業）
81	五十嵐 億太郎	歴史	留萌	留萌市	草創期の留萌において、北海道の発展のために、石炭積み出し港としての留萌港の建設と内陸部の資源を運搬するための鉄道整備に、私財をなげうって地元有志とともに尽力し、留萌発展の基礎を作った。※1950年市制特別功労者、1965年名誉市民	留萌市海のふるさと館	4/27～10/27（冬季休業）
82	佐藤 勝	音楽	留萌	留萌市	生涯で308本の映画音楽を作曲し、日本アカデミー賞優秀音楽賞など数多くの賞を受賞したほか、1993年に紫綬褒章、1999年には勲四等旭日小綬章を受章。故郷留萌でのコンサート開催、沖見小学校の校歌作曲など、留萌市の芸術文化振興に貢献した。※1992年留萌市功労賞	留萌市海のふるさと館	4/27～10/27（冬季休業）
83	桐山 三四郎	その他	宗谷	利尻富士町	明治2年に宗谷に来て以来、道北各村の戸長を歴任し、明治14年に利尻郡各村戸長。漁業や地域経済発展に尽力、病院や利尻小学校の創立にかかわり、北海道議会議員にも就いた。	利尻島郷土資料館	5/1～10/31
84	ラナルド・マクドナルド	その他	宗谷	利尻富士町	アメリカのオレゴン州で生まれた。1848年に鎖国状態だった日本への入国を果たすため、捕鯨船に乗り単身利尻島へ上陸。移送された長崎で、森山栄之助ら通詞に英語を教えたとされる。	利尻島郷土資料館	5/1～10/31
85	ピアソン夫妻 (ジョージ・バック・ピアソン)	その他	オホーツク	北見市	40年にわたる日本在留、うち35年を北海道で、最後の15年を北見（当時は野付牛）に在住し、その間キリスト教伝道を通して幼児・婦人教育、廃娯運動や文化活動を実践し開拓民の心の拠り所となった。	ピアソン記念館	4/1～3/31（通年）
重複	ピアソン夫妻 (アイダ・ゲップ・ピアソン)	その他	オホーツク	北見市	40年にわたる日本在留、うち35年を北海道で、最後の15年を北見（当時は野付牛）に在住し、その間キリスト教伝道を通して幼児・婦人教育、廃娯運動や文化活動を実践し開拓民の心の拠り所となった。	ピアソン記念館	4/1～3/31（通年）
86	米村 喜男衛	文化	オホーツク	網走市	網走川河口付近でモヨロ（最奇）貝塚を発掘し、5世紀から9世紀頃にオホーツク海を中心に展開された「オホーツク文化」の存在を明らかにし、北海道の考古学上において大きな発見をした。網走市名誉市民。	モヨロ貝塚館 (網走市立郷土博物館分館)	4/1～3/31（通年）
87	植芝 盛平	歴史	オホーツク	遠軽町	和歌山県田辺市より団体移住の団長として遠軽町白滝に入植し、発展の基礎を築く。遠軽で出会った武田惣角氏の大東流合気柔術など古流武術から「合気道」を創始した。	白滝ジオパーク交流センター	4/1～3/31（通年）
88	留岡 幸助	その他	オホーツク	遠軽町	北海道家庭学校の創設	北海道家庭学校	4/1～3/31（通年）
89	伊福部 昭	音楽	十勝	音更町	映画「ゴジラ」で著名な作曲家、伊福部昭氏が「揺籃(ようらん)（※）の地」と呼んだ音更町は、村長になった父と共に少年期から青年期を過ごし、村の開拓民の歌う民謡やアイヌの歌が氏の創作の原風景となりました。氏は音更町歌の作曲家であるほか、現在、「音更町伊福部昭記念ジュニアオーケストラ」が活動するなど、本町の芸術文化の向上に大きな功績がありました。	音更町図書館	4/1～3/31（通年）
90	村山 和十郎	歴史	十勝	新得町	新得町のシントク原野を開墾した北海道開墾組合の中心者。	新得町公民館	4/1～3/31（通年）
91	藤川 マキエ	その他	十勝	新得町	昭和28年4月新得町に私財を投じながらも、身体障害者ろうあ者授産施設を創設するとともに、収容施設わかふじ寮所長に就任し、今日の社会福祉法人厚生協会の施設充実と、障害者の福祉向上に尽くした。（昭和54年名誉町民の称号授与）	新得町公民館	4/1～3/31（通年）
92	駒木 嗣雄	その他	十勝	新得町	昭和32年に、屈足国保診療所長として就任。特に、陸の孤島といわれたトムラウシ地区の診療活動、各種検診、予防接種、学校医として活躍、地域住民の健康管理に多大な貢献を果たした。（平成10年名誉町民の称号授与）	新得町公民館	4/1～3/31（通年）
93	石畑 久成	その他	十勝	新得町	昭和4年新得町村会議長となり、昭和34年まで在任し、その間、副議長、議長を歴任。北海道町村議会議長会会長、全国町村議会議長会副会長も務めた。昭和34年北海道議会議員に初当選、3期12年間にわたって地方自治振興に尽くした。（昭和50年名誉町民の称号授与）	新得町公民館	4/1～3/31（通年）

No.	先人氏名	分野	振興局	市町村	功績概要	施設名	開館時期
94	平野 栄次	その他	十勝	新得町	明治45年茨城県から本町へ来住し、家畜診療に従事した。昭和23年の畜産試験場の誘致、昭和26年には北海道議会議員となり、32年に新得町長に当選以来4期の間、町づくりに心を砕いた。なかでも、昭和41年幾多の壁を破り国鉄石勝線の実現に功績を残し本町の基礎を強固にした。(昭和48年名誉町民の称号授与)	新得町公民館	4/1～3/31 (通年)
95	渋沢 栄一	歴史	十勝	清水町	明治31年に「十勝開墾合資会社」を設立。旧人舞村(現清水町)熊牛の原野に農場事務所を設け、26戸99人の移住者と共に開拓を実施したことが清水町の発祥となっている。	清水町郷土史料館	4/1～3/31 (通年)
96	パロン西(西竹一)	スポーツ	十勝	本別町	1932年のロサンゼルスオリンピック馬術障害飛越競技で、金メダルを獲得した西氏は、旧陸軍省軍馬補充部在籍時に、本別町仙美里で勤務をした本町にゆかりある人物である。のちに太平洋戦争を題材とした映画で脚光を浴びた。氏の足跡は本町の平和教育に多大な貢献をしている。	道の駅ステラ★ほんべつ	4/1～3/31 (通年)
97	関 寛斎	歴史	十勝	陸別町	「陸別町開拓の祖」。幕末から明治の動乱期に蘭方医として活躍。72歳で北海道に渡り陸別町斗満(トマム)の開拓を指導。	関寛斎資料館	4/1～3/31 (通年)
98	米坂 ヒデノリ	アート	釧路	釧路市	釧路に生まれ、釧路に長く拠点を置いて、北海道の無名の開拓者たちへの深い想いを表現した彫刻家。全国的にも評価される活動を展開した美術家として、釧路地域における先駆的存在。	北海道立釧路芸術館	4/1～3/31 (通年)
99	毛綱 毅曠	アート	釧路	釧路市	釧路生まれの建築家。1972年、釧路市内の住宅「反住器」を設計し、北海道における「ポストモダン」建築の先駆となった。その後釧路をはじめ弟子屈町、下川町にも個性的な建築を残し、全国的に注目された。	北海道立釧路芸術館	4/1～3/31 (通年)
100	片岡 新助	文化	釧路	釧路市	道東初の博物館となる釧路市立郷土博物館の開設(1936年)に尽力、初代館長を務めるなど1963年まで勤務し、郷土文化の集積と発展に貢献した。	釧路市立博物館	4/1～3/31 (通年)
101	最上 徳内	歴史	釧路	厚岸町	江戸時代後期、幕府の命を受けて蝦夷地の調査を行ったのを皮切りに、その後生涯で9回蝦夷地(北方領土を含む)を訪れている。その際、徳内は当町を調査の拠点とし、またアイヌ民族で当時アッケシの有力な指導者であったイコトイらの案内・協力を得て、調査を実施した。この調査により、千島列島周辺の状況を実地に検分し、千島が列島であることを地図におこし、また近藤重蔵とともに、択捉島に「大日本恵登呂府」の標柱をたてた。当町においては、1791年に厚岸神社の前身である「神明宮」を建立した。	厚岸町海事記念館	4/1～3/31 (通年)
102	大井上 輝前	その他	釧路	標茶町	釧路集治監初代典獄として指揮を振るい、受刑者の労働力によって釧路地方の内陸開発に大きく貢献した。また一方で受刑者に対する人道主義的な観点から、更生保護の先駆者たちとの関わりを深め、監獄改良に務めた。	標茶町博物館 ニタイ・ト	4/1～3/31 (通年)
103	松本 十郎	歴史	根室	根室市	開拓判官として根室の町の基礎を築いた人。自費で病院や納沙布岬と弁天島に灯標を設置するほか道路整備などを行った。	根室市歴史と自然の資料館	4/1～3/31 (通年)
104	飯田 三郎	音楽	根室	根室市	作曲家として様々なジャンルの作品を作曲し、多くの名曲を生み、代表作「ここに幸あり」はハッピーソングの名曲として大ヒットした。その他にも昭和37年に「若い日本」で国民の歌内閣総理大臣賞を受賞し、昭和48年には作曲したミサ曲が認められ、ローマ法王庁から褒状を授与されるなど、日本の音楽分野に大きく貢献された。 また、「北国讃歌」をはじめ、ふるさと根室を主題とした曲を多数作曲するなど郷土の音楽史に語り継がれている。	飯田三郎資料展示室	4/1～3/31 (通年)
105	加賀 伝蔵	歴史	根室	別海町	幕末にアイヌ語通辞として、根室地方で働きアイヌ撫育など数々の功績を上げ、詳細な記録を残した。	別海町郷土資料館附属施設加賀家文書館	4/1～3/31 (通年)
106	松野 傳	産業	根室	中標津町	昭和2年に中標津にて開設された旧北海道農事試験場根室支場の初代場長に抜擢された。松野場長中心に試験研究が行われた結果、昭和8年に殺菽農業から気候に左右されない酪農色の濃い農業経営を目指す指針を含む「根釧原野農業開発五ヶ年計画」が樹立された。	中標津町郷土館	4/1～3/31 (通年)
107	南摩 綱紀	歴史	根室	標津町	松浦武四郎が目指した和人とアイヌが共に開拓に臨む蝦夷地開拓を根室地域で実践した。	標津町ポー川史跡自然公園	4/29～11/23
108	森繁 久彌	音楽	根室	羅臼町	羅臼を舞台とした映画「地の涯てに生きるもの」のロケで滞在中に、村民の協力で感謝して「さらばラウスよ」を作詞作曲し、村民とともに合唱する。これが、知床ブームのきっかけとされる後の「知床旅情」となる。	羅臼町郷土資料館	4/1～3/31 (通年)